

## 平成31年度事業報告

### はじめに

社会福祉法人として4年目の事業年度にあたり、社会福祉法人円合併後2年が経過しました。

合併当初の平成30年度は、まどか・まどか西中田と仙萩の杜各事業所との融合を念頭に、どのように事業を進めるかの模索の年と位置付け進めてまいりましたが、平成31年度は法人の運営方針である「障がいのある方たちが誇りと輝きをもって、ありのままに暮す・働く」を基本に活動し、豊かな地域生活が営めるよう、その能力や可能性を最大限に伸ばすための支援活動を行なってきたことが利用者、保護者に浸透し、事業所間の結びつきを強くすることができ、良い形の合併ができました。

ハード面での施設整備としては、まどか西中田の多動の利用者の方への対応として、車道の飛び出し事故防止にフェンス及び門扉の設置工事を行いました。

まどかは、本格的な始動に向けて収益の少なかったベーカリーカフェを地産地消のレストランとして5～7月の3か月をかけて工事を行い、「海と畑のレストランぴあてらす」として稼働させました。8月3日には日頃お世話になっております方々をお招きし、プレオープンのお披露目をさせていただきました。10月には地域の方々をお招きして「ぴあてらす祭」を行い、賑わいを見ました。

また、仙台市と協議しながら、令和元年度に行われる2020東京オリンピック・パラリンピックの仙台市の震災復興パラリンピック採火場に選定され、順調な滑り出しができました。

ぴあでは、ヤマト福祉財団様からのご助成でベーカリー機器を整備し、まどかのベーカリーのノウハウを学びながら新たなベーカリー事業をぴあの第2の事業として位置付け、職員、利用者が一丸となり進めてきた1年となりました。

しかし、令和2年2月頃から新型コロナウイルス感染拡大が報道されるようになり、各事業所がその対応に追われる日々が続いております。

特にレストランの来客数の減少は著しいものがあり、利用者の方々にお支払いする工賃の財源が課題となっております。

### I. 就労支援事業及び生活介護事業について

#### ①ぴあ

##### ・就労継続支援事業（B型）

平成31年度は、4月からの新卒者2名を加え36名でスタートし、年度途中で2名の退所者、1名の入所者があり、合計35名で運営してまいりました。

前年度から引き続き弁当の製造・販売事業を主たる事業とし、仙台市役所、上杉分庁舎及び宮城県庁等で行政職員向けのフロア販売を、各支援校や行政機関、市民センター、各種イベント等で注文弁当の販売を行いました。弁当チケットを定期的（隔月で偶数月）に販売し、メニュー自体のトッピングや彩り、メニュー名の変更等、話題性や流行も考慮したお客様に訴求できる弁当を念頭に、販路を維持・拡大する工夫を進めてまいりました。また、facebookやネットアンケートを利用し広報を行いました。

しかしながら、食材の値上げ・販売価格の据え置きで収益が思ったように伸びず、工賃の更なるアップには繋がりませんでした。工賃財源の確保が引き続きの課題となっております。原材料費の高騰で原価率が上昇したことを受けて、原材料購入先の選別による利益の確保を図り、美味しくて旬の郷土食材を調理方法に工夫を凝らして更にお客様に支持される商品の開発と販売先の拡充を推進してまいりました。

ヤマト福祉財団様から助成金をいただき遠見塚作業所（元びあFactory）にびあベーカリーの設備を整備しました。10月から本格的に稼働を始め、各種丸パン（バターロール、レーズン、くるみ、うぐいす、にんじん、チョコチップ）、バゲット、生食パン等をレストランびあやびあてらすの店頭で、お弁当と一緒に市役所や県庁で販売しております。商品開発も積極的に行っており、チーズパン、黒糖くるみパン、塩コーンパンといった丸パンを試作し、順次商品として販売し好評を博しております。

また、みずほ福祉財団様からご助成いただき、販売・配達用車両としてスズキのエブリィを購入し、活用しております。

平成31年度も各支援学校等から実習生を受け入れ、令和2年度は新たに2名の方の利用に繋げております。セルフふくしまや各支援学校の教職員、保護者等の見学会を4回ほど行い事業所の情報の周知に努めました。

#### ・就労移行支援事業

4月に2か月間の利用で退所された方が1名あり、ご利用の方がいない状態となりましたが、常に利用希望に対応できるよう体制を整えてまいりました。また、平成31年度も仙台市立鶴谷特別支援学校からの就労アセスメントの依頼を受け8名の方の就労アセスメントを作成いたしました。

### ② レストランびあ

#### ・就労継続支援事業（B型）

平成31年度は、4月からの新卒者2名を加えて合計17名で運営してまいりました。

前年度に引き続きお客様に喜ばれる季節感あふれる美味しいランチを提供し、ご好評をいただきました。加えて喫茶タイムの充実を図り売上の向上を目指してまいりました。平成31年度も宮城県との事業提携として水産振興課が行う毎月第3水曜日の「みやぎ水産の日」で宮城県産魚介類の食材を利用したメニューを提供いたしました。また、「第40回全国豊かな海づくり大会」ともタイアップしたメニューを令和2年度に跨って提供しております。

しかしながら、食材の値上げ・販売価格の据え置きで収益が思ったように伸びず、工賃の更なるアップには繋がりませんでした。工賃財源の確保が引き続きの課題となっています。

平成31年度も各支援学校から実習生を受け入れました。卒業後の進路先として、見学会やお食事会、支援学校の教職員の研修会等、大勢の方にもご利用いただきました。

### ③ まどか

#### ・就労継続支援事業（B型）

平成31年度は、4月からの新卒者1名を加え32名でスタートし、年度途中に事業所間の異動や1名の退所者があり、合計29名で運営してまいりました。

提供サービスの変更による利用者の異動に伴い、利用者送迎をバス事業者への委託から事業所職員による送迎へと切り替え、就労支援事業所の再構築を図ってまいりました。

8月にレストランびあてらすをオープンし、従来のカフェからレストランへ業態を転換しました。地場の旬の食材を取り入れたメニューを提供し、ベーカリーびあぶらんのパン販売やまどか農園の野菜販売との相乗効果で売上を伸ばしております。10月にはレストランの広報を兼ねてびあてらすまつりを開催し、200名以上のお客様にお出でいただき、地域住民の方々に親しまれるレストランに

なっています。

ベーカリーぴあぶらんでは、引き続き無添加で国産小麦粉を使用した100%ぴあぶらんブランドのパンやクッキー、スイーツ等を製造し、周辺の保育園や幼稚園、支援学校等から発注をいただき、高い評価を得ております。

農園事業については、計画的な作付けを基本とし、減農薬栽培による自然栽培の実践に取り組みました。また、栽培・販売方法の両立を図りながら利用者自らが栽培の喜びを体験する販売を推進してまいりました。

また、西中田の畑地の賃貸借契約を終了し、新たに四郎丸に畑地を賃貸借しております。土壌の整備からの作業となりましたが、事業所の近接地ということもあり効率的に作業を行うことができています。

清掃事業については、近隣の事業所より清掃業務を受託し定期的に作業を行ってまいりました。

平成31年度は各支援学校から実習生を受け入れ、卒業後の進路先として各支援学校の生徒や保護者、教職員等の見学会を行い事業所の情報の周知に努めました。

#### ④まどか西中田

##### ・就労継続支援事業（B型）

平成31年度は、定員の変更及び利用者の異動を行い、定員10名・利用者7名でスタートし、年度内の異動、入所者、退所者もあり合計9名で運営してまいりました。

利用者の就労体験や作業訓練、言葉の使い方、挨拶等といった人との接し方、作業意欲の向上を図りました。また、利用者自身の活動が自分たちの工賃の向上に繋がるよう考える機会を作る支援を行い、あわせて販売活動で人間形成に必要な自立意識の向上、育成を図ってまいりました。

基板解体事業については、作業の効率化を図りつつ、生活介護事業の利用者にも作業に参加してもらうことで事業所としての一体感を醸成してまいりました。

平成31年度も各支援学校より実習生を受け入れ、各支援学校卒業後の進路先として、事業所の情報の周知に努めてまいりました。

##### ・生活介護事業

まどかでの事業を引き継ぐ形で仙台市より新規指定を受け定員10名・利用者10名でスタートし、1名の退所者があり合計9名で運営してまいりました。

日中活動支援の充実を目指し、穏やかな時間の流れに寄り添った、きめ細やかな支援に取り組みました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため外出が難しくなった中で体力維持のために支援内容の見直しにも取り組みました。

常時介護等の支援が必要な方に、食事及び排せつの介護、創作的活動等を提供し、生きがいと誇りのある生活支援を行ってまいりました。

## II. 相談支援事業について

### あしすとびあ

#### ・指定特定相談支援事業所 ・指定障害児相談支援事業所

主に障がいのある方々が日常生活及び社会生活において総合的に支援を受けるための支給決定を行うにあたって行政に提出が必要になるサービス等利用計画案・障害児支援利用計画案及び本計画を提出し、モニタリング等の継続支援を行いながら、利用者の方々が輝ける「あしすと」を目指して支援してまいりました。

廃止・休止された事業所の方々のサービス等利用計画案、本計画も作成、支援

してまいりました。各区の連絡協議会主催の相談員のスキルアップを図るケース検討会等にも積極的に参加しました。

法人合併後、まどか・まどか西中田のセルフプランのケースを随時受け入れてきましたが、一人事業所として受入人数が限界に達しているため、新規受入の制限や、他の相談支援事業所へケースを振ることで対応してきました。

### Ⅲ. 共同生活援助事業について

#### ぴあぴーんず

平成30年度体験ステイ利用者の方が4月から2名入居され、平成31年度は利用者の方2名での運営となりました。定員4名を満たすべく法人内部はもとより外部利用者も募るために、あしすとぴあや他法人の相談支援事業所、各区役所と連携をとって運営してまいりました。

### Ⅳ. 広報活動について

引き続き、ホームページを更新し、事業所の情報や活動内容を積極的に発信してまいりました。法人の広報や弁当の販促にfacebookやネットアンケートを取り入れ、情報を拡散することで売上や知名度の上昇を図りました。宮城県コンサルタント助成事業を活用し、法人・事業所のリーフレットや2レストランのメニュー看板をリニューアルし、新たにショップカードも作成・配布することで事業所の情報を発信してまいりました。

ぴあてらすには通行車両から目に着くような大きな看板を設置しました。

また、後援会と連携し、後援会だより等でより幅広い層の方に法人・事業所の活動を知ってもらうことができました。

### Ⅴ. 啓発活動について

宮城県庁18階のレストランぴあを始めとし、宮城県の障害者支援のアンテナショップとして、法人の理念である「障がいがあってもなくても、今できるありがとうをみんなで社会に還元していく」を実践してまいりました。福祉だけでなく宮城県、仙台市の被災後の食の安全と産業再生への地域的取組みも併せて積極的に発信してまいりました。

### Ⅵ. 地域生活支援事業（余暇活動等）について

#### ・コーラス活動（ぴあま〜る）について

在仙アーティストの猪狩太志氏の指導の下で土曜日にコーラス練習会（合計10回）を重ね、日常の生活の自信と誇りにつながるよう発表の場を設けてまいりました。「とっておきの音楽祭」、「若林区合唱のつどい」、「宮城野うたまつり」、「ウエルフェア」や新入所者をお迎えする入所式、ぴあてらすまつり等で発表を行いました。輝ける自己表現の場として社会との懸け橋になるように利用者・ご家族の方だけでなく多くの方の参加を促してまいりました。

#### ・レクリエーションについて

例年に引き続き、利用者の方たちと職員が集うクリスマス・忘年会等、仕事仲間との楽しい時間を共有していただけるような機会を組み込んでまいりました。

#### ・研修旅行について

10月22日・23日、27・28日に横浜・鎌倉方面、10月31日・11月1日に豊洲・富士山方面、11月17～20日に上海方面に希望者で研修旅行を行いました。団体での行動や宿泊等、日常とは異なる体験をすることで充実し

た社会研修旅行となりました。

## **VII. その他**

### **・職員研修**

法人内研修

仙台市宮城野区役所食品衛生監視員による「HACCP」の全職員研修を行いました。

外部研修として下記の研修に職員を派遣しました。

「食品衛生講習会」

「就業支援基礎研修」

「令和元年度アーチル発達障害基礎講座（共通編・支援者向け）」

「2019年度社会福祉施設経営実務セミナー」

「2019年度社会福祉法人会計実務セミナー」

「令和元年度宮城県経営強化セミナー」

「食品表示法完全移行直前対策セミナー」

「令和元年度宮城県サービス管理責任者等更新研修」

「接遇講習会」

「菓子製造業衛生講習会」

「令和元年度宮城県サービス管理責任者研修等基礎研修」

「令和元年度第2回計画相談支援実務研修会」

「令和元年度アーチル発達障害特別講座（支援者向け）」

「令和元年度仙台市社会福祉法人・施設職員研修

「会計担当職員研修②（応用編）」

「食品の信頼性確保トップセミナー」

「視察研修」

「中堅職員研修」

「令和元年度かかりつけ医等心の健康対応力向上研修会」

「社会福祉法人の経営力強化～法人経営と働き方改革～」

「令和元年度第2回障害者グループホームセミナー」

「第4回宮城発これからの福祉を考える全国セミナー」

ほか、多数

各事業所の多忙な通常業務の中で職員の研修への参加は負担の大きいものでしたが、職員間の連携で資質向上のための多くの研修に繋げることができました。

### **・健康管理について**

利用者・職員等の健康維持のため、健康診断を実施し、嘱託医の金野公一医師及び沖田内科医院の沖田医師のご指導の下、利用者等の健康管理に留意してまいりました。